

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成19年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2275100176		
法人名	有限会社 吉田工房		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地 (電話番号)	焼津市下小田146	(電話) 054-625-0068	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年6月21日		

【情報提供票より】(H19年6月14日事業所記入)

開設年月日	平成 13 年 6 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	4.1

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月14日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本石井病院
---------	--------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して6年を経過するホームは、自然環境に恵まれた場所に設置され、ホーム全体が明るく家庭的な雰囲気が醸し出されている。台所を兼ねた共有空間は、職員が利用者とともに制作した季節感のある作品等が飾られる等、利用者の憩いの場所ともなっている。職員もゆったりと利用者に接し、落ち着いて安心して生活している様子が伺える。利用者一人ひとりの状況を職員が把握し、充実した生活が継続して行えるようにさりげない支援が行われている。食事やおやつも手作りで、家庭的な味と盛り付けに工夫がなされている。地域行事にも積極的に参加する等、地域に根付いたホームづくりに開設以来取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果内容を踏まえ、経営者、管理者及び職員が共通の理解をして改善に取り組んできている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価に取り組み、問題や課題等を共有している。問題や課題を明らかにしているので、定期的な内部研修(会議)等で、理解を深めようと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を家族や地域自治会役員、市職員等の参加を得て開催した。その内容を記録し、全ての職員で共有している。今後も定期的な会議開催を行い、それを活用することで利用者のサービス提供の質の向上を図る取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者家族の訪問も多く、利用者及び家族とホームの関係は良好である。家族が気軽に相談や意見が言えるような雰囲気づくりに努めている。また、相談や意見をケース会議に諮る等、適切に対応している。今後も利用者家族が気軽に何でも言える雰囲気を大切にして欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設6年を経過し、地域に根付くホームづくりを行ってきた。現在では、自然に地域に溶け込んだ運営となっている。日常生活でも地域住民との関わりが自然に行われ、地元中学生の体験学習を受入れる等、ホーム機能を地域に還元していく取り組みにも力を入れている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者は「地域の中で、その人らしく暮らし続けること」を念頭にホームを設立した。また「健康で、ゆったり、生きがいのある生活」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は理念を共有し、その実践に向け定期的に確認し合っている。利用者が健康的な生活が送れ、日々ゆったり暮らせるように確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常生活で散歩にもよく出掛けるので、地域住民と自然に交流が深まっている。地域行事にも出来る限り参加するように促している。	○	地域に根付いたホーム運営の必要性を良く理解しているので、今後も交流を深め、近隣住民がホームに気軽に立ち寄れる関係づくりを更に進めらるるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価および外部評価の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。評価を活かし、具体的な改善を計画的に進めようとしている。	○	問題点や課題の共有に努めているので、今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を発足させ、家族や民生委員、市職員や自治会役員等の参加を得て開催した。会議内容や意見の記録をまとめ、職員にも周知している。	○	運営推進会議を定期的開催し、利用者の生活に広がりが見られるように今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れている。市介護保険課職員と定期的に話し合う機会を設け、サービスの質の向上についても話し合いを行っている。	○	今後も保険者である市町には積極的に働きかけを行い、サービスの質の向上に向けて話し合い等を重ねて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の日常の生活の様子を伝えるとともに、訪問があまり無い家族には郵送で状況を伝えている。利用者の自宅への外泊時には、記録等を持ち帰ってもらい確認を得るようにしている。健康状態や金銭管理状況は定期的に説明、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に3～4回開催し、家族から率直な意見を得るようにし、それを運営にも反映させるようにしている。運営推進会議でも家族の参画を得たり、日ごろから家族からの意見を把握するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わり等による利用者への弊害を良く理解し、移動や離職を最大限抑えるように取り組んでいる。	○	職員の離職はやむを得ないが、出来る限り移動や離職を防ぐ検討を重ねられるように期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上に向けて意欲を持ち、法人内外の研修に積極的に受講できるように支援している。また、日常業務におけるOJTについても取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他ホームの管理者や職員と交流できるような機会を設けている。定期的な交流や研修機会を設け、サービスの質の向上に向けて取り組むようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を行い、利用予定者が実際にサービス提供を受け、その体験を踏まえ、馴染んで利用できるように配慮している。また、一人ひとりに応じたサービス提供方法についても検討をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、出来る限り利用者とともに過ごせるように留意し、利用者の尊厳を損ねることがないように喜び合えるような関係づくりを行っている。ともに支えあう関係づくりを目指して接するように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を大切に考え、その都度選択が出来る場面を数多く提供している。利用者本位の生活が実現できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心としながらも関係する職員とも話し合いを重ね、利用者及び家族の意向も踏まえて計画策定するとともに、職員全てが計画の内容を確認できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間に応じて見直しを行い、必要に応じて随時見直しが行えるようにしている。また、その内容は利用者、家族にも伝え、意見や意向を踏まえた見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム建物の1階では、通所介護事業が行われ、相互に利用者が交流する機会を設ける等している。	○	ホームの持つ特性を活かし、保険対象外のサービス実施について利用者や家族の意向を踏まえて柔軟に検討を深めて欲しい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望、馴染みのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、そのかかりつけ医とも情報交換が行えるような関係構築を目指している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期への支援については、話し合いを行っているが、ホームとしての方針をまとめるにまでは至っていない。	○	ターミナルケアの問題については、一律的な取り組みは難しいが、ホームとしてそれにどう対応していくのかの検討を重ねていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや尊厳を損ねたり、傷つけたりすることがないように十分に留意して言葉掛けやサービス提供が行われている。個人情報の保護についても理解を深めている。	○	利用者一人ひとりの尊厳を大切に守ることについては、職員も十分理解しているので、今後もその取り組みを継続して行って欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに沿って生活できるように配慮し、ホームのプログラムを無理強いすることがないように留意している。利用者が充実した毎日を送れるように見守り、さりげなく手を差し伸べるような支援に徹するように心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員が利用者とともに一緒に買い物に行っている。食事も、職員と利用者が一緒に食事を摂り、楽しい時間となるように留意している。メニューも魚と野菜を中心にし、栄養のバランスや組合せ、彩りにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めているが、利用者の希望時間に入浴することができる。夜間の入浴も可能であり、ゆったり入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好やこれまでの生活歴を把握し、楽しみごとや気晴らしとなる活動が行えるように支援している。また、ホーム内の役割も楽しみながら自然に行えるようになってきている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向も踏まえ、気軽に外出できるように積極的な支援が行われている。雨天時以外はほぼ毎日散歩や買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は一切行っていない。利用者の行動には職員が見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っている。消防署の協力も得た訓練を行い、緊急時には、直接消防署に通報されるシステムも導入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表を作成し、毎食の摂取量の記録をしている。水分摂取量についても、一人ひとりの状況を観察するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂、廊下には、利用者の外出時等の写真が掲示され、季節に応じて利用者と職員の共同で作成した作品が飾られる等暖かな雰囲気になっている。室内の壁紙やドアの色、のれんなどの色使いも家庭的な雰囲気が醸し出されている。	○	職員と利用者が協働で作品を創り、飾られている雰囲気はととも良く、今後も無理のないように是非続けて欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品を持ち込み、利用者の好みに応じた個性ある居室となっている。		